

旭川通園事業所 支援プログラム



児童発達支援

- ①健康状態の維持・改善
- ②生活リズムや生活習慣の形成
- ③基本的な生活スキルの獲得

- ①ご家庭内での困りごとについての相談受付
- ②必要に応じて面談を行う
- ③懇談会を実施し意見交換を行う

運動・感覚

- ①健康状態の維持・改善
- ②生活リズムや生活習慣の形成
- ③基本的な生活スキルの獲得

- ①体幹
 - ・日常生活や学習活動への配慮
 - 例) バランス: 体幹を鍛える→参加する事に意力的になる→他の人の話を聞く事が出来る
- ②技巧
 - ・感覚を伴う活動
 - 例) 掴む: ボールを掴む→掴んだボールを移動する
 - ※指の力と物の形が変わる場合の持ち方、力加減を学習し日常生活に必要な手段の幅を広げる
- ③運動
 - ・体力の向上
 - 例) 楽しい運動の活動: ボールを転がす→ボールを追う→ルールを覚える→チームワークを経験する
 - ※活動が自己満足では無く、複数人で取り組む事により達成感を共有し持続へと繋げる

認知・行動

- ①認知の発達と行動の習得
- ②空間・時間、数等の概念形成
- ③対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

- ①行動分析
 - ・行動分析を用いた支援
 - 行動の悪循環を防ぐ→正しい行動への転換
 - ※誤学習に繋がった原因を探り適切な支援へと結びつけていく
- ②統一した関わり
 - 関わり表の活用: 対象児童の混乱を防ぐ為の支援
 - ※児童の混乱を防ぐ為、職員が共通の認識を持つことが出来る



人間関係・社会性

- ② 他者との関わり
- ②自己の理解と行動の調整
- ③グループ活動への参加

- ①役割の認識
 - ・自身の位置付け
 - 役割を明確にする→集団としての目標を達成する→集団活動の楽しさを知る
 - ※集団活動でのルールと役割を学ぶことにより、その先にある達成感を経験する
- ②他者との関わり
 - ・作り上げていく経験
 - 適応力を高める: 役割での対応力を広げる→自己判断力を高める→その時々での対応を経験から考える事が出来る
 - ※集団活動では、自分の思い通りにならないこともあることから、経験を積むことにより克服していく

言語・コミュニケーション

- ①言葉の形成と活用
- ②コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ③手段の選択と活用

- ①適切なコミュニケーション手段
 - ・認知度に合わせた教材や活動内容を考える
 - ※認知度に合わせた関わりを提供する事により、理解・表現能力が向上し、伝わる事を多く経験する事により、人に関わる事に対する意力が湧く
- ②必要なツールの活用
 - ・絵カードやスケジュールボードを使用し、ご本人の意思がくみ取れるように心掛ける

健康と生活

- ① 医師・看護師による視診・触診・検温チェックを行い常に健康状態を把握し安心・安全に過ごせる環境の中、保育を行います。
- ② 保護者様の声を大切にします。日々のお子様の様子・好きな事・大切にしたい事を連絡ノートや会話の中で伝え合い、ともに成長を喜べる様に支援します。
- ③ ご家庭、他事業所での生活リズムを引き継ぎ少しずつ集団生活へ慣れていく様、無理のない保育に努めます。

運動と感覚

- ① 季節感を手や足で感じられる遊びを通し五感の発達を促します。
- ② リハビリ訓練士指導のもと、お子様にあった安楽な呼吸・姿勢で活動に参加し、沢山の遊びを通し一人ひとりの強みを見つけアプローチしていきます。

認知・行動

- ① 歌遊び、手遊びを通して、色や形、数字への興味を促します。
- ② お買い物ごっこ等のごっこ遊びの中で、数や量に触れる機会を作ります。

人間関係・社会性

- ① 探索活動を通して人や周りへの関心を持つ中で、大人が喜びを共感し、言葉を添えていく丁寧な関わりを行います。
- ② 絵本の読み聞かせを大切にします。まだ経験していない事を絵本から学び、生活・言葉・遊びに繋がる保育を楽しみます。

言語・コミュニケーション

- ① 優しい笑顔・優しい声でゆっくりとコミュニケーションをとる中で、ごあいさつ、お返事、お友達の名前、関わる大人の名前を覚えていける様支援します。
- ② 抱っこや触れ合い遊びでのタッチングを大切にします。
- ③ 療育園内の探検を楽しみながら沢山の人と出会う機会を作ります。

旭川通園事業所では。医師・看護師・児童指導員・保育士・支援員が在籍しており、個々の支援についてそれぞれの職種の専門性を活かしながら安心安全で楽しい支援を提供しています。

具体的な
支援

